

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) Number 9(桐蔭学園)

①桐蔭横浜大学の教育改革 —共通プログラム「MAST」と3学期制の実現—

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 学長・教授

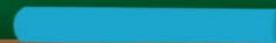
<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、2000年講師、2003年准教授、2014年教授を経て、2019年4月より現在に至る。京都大学博士(教育学)。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画は溝上が個人的に作成・提供するものです

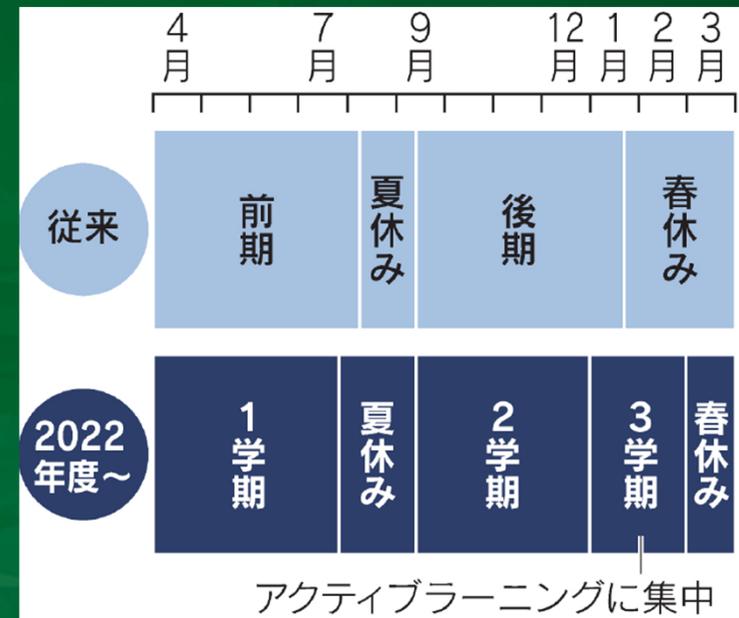


今回の企画

日本経済新聞（2022年2月15日版）

「大学の授業、もっと対話的に—桐蔭横浜大、「3学期制」導入」

- 探究を2ヶ月間／4年次まで体系化



インタビュー紹介



森 朋子

もり ともこ

桐蔭横浜大学 教授・副学長
(2022年4月より学長)

専門は学習研究、学習理論
ドイツケルン大学・大学院卒業、大阪大学大学院前期後
期課程修了。博士。
島根大学准教授、関西大学教授を経て2020年より現職

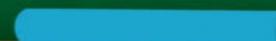


並木 浩一

なみき こういち

桐蔭横浜大学 教授・学長補佐

専門はメディア論・表象文化論・日本語教育
京都造形芸術大学大学院修了、博士
ダイヤモンド社で編集長2誌、大同大学教授を経て現職



それではインタビューを
ご覧ください



TOIN GAKUEN
学校法人 桐蔭学園

桐蔭横浜大学

TOIN UNIVERSITY OF YOKOHAMA

桐蔭横浜大学のリ・ブランディング

1. TURBoSの設定

～ Toin Univ.'s Re-Branding Strategy -TURBoS- ～

課題

- ✓ 減少し続ける18歳人口と、進学者構成(男女比)の変化
- ✓ 志願者数と入学者数の安定的確保の重要性



Act

- ✓ 女子への訴求力を高め、大学進学市場の変化に対応する。
- ✓ キャリア志望が明確ではない受験者の獲得につなげる。

戦略1 二つのライフを接続するため、多様な学びを提供する

- ◆ 大学全体の教育目標の整理
- ◆ 各学部が連携する、新たな課程(学位プログラム)の構築
- ◆ 新たな大学共通科目制度の発足と、専門教育の深化

戦略2 女子学生を呼び込むなど、キャンパスの多様性を図る

- ◆ 各学部が連携する、新たな課程(学位プログラム)の構築
- ◆ 外国語教育プログラムの構築
- ◆ 大学PR戦略とウェブサイトの再構築
- ◆ ALを加速するラーニングスペースの整備

再掲

戦略3 理念を実現化する特徴ある学士課程教育を構築する

- ◆ 学部3ポリシーの見直し、アセスメントプランの構築
- ◆ 学士課程をサポートするミドルレベルの質保証システムの構築
- ◆ 新たな大学共通科目制度の発足と、学部専門科目の深化
- ◆ 入学前教育プログラムの定着と拡大

再掲

戦略4 学習研究に基づく最先端の教育方法を導入する

- ◆ ハイブリッド型学習の導入とアクティブラーニングの更なる促進
- ◆ マイルストーン、ショーケースなど学びの支援システムの導入
- ◆ 最先端の教育実践大学としての発信力の強化
- ◆ 理解を深めるコースワーク、学年暦などの抜本的な見直し

戦略5 社会につながる多様な他者との学びをデザインする

- ◆ ピアサポート風土の醸成とラーニングスペースの設置
- ◆ 多様な大学との連携による、学士課程の量的充実
- ◆ 地域や産業界、同窓会との連携による、学士課程の質的充実
- ◆ 準正課プログラムの検討

戦略6 高大接続・トランジションのプログラム化を推進する

- ◆ 桐蔭高大Dual enrollmentシステムの構築
- ◆ 入学前教育プログラムの定着と拡大
- ◆ 桐蔭プレ・キャンパスの実施
- ◆ 学修・学生支援のシステム化

再掲

2. ユニバーシティ・ポリシーの策定（仮）

桐蔭横浜大学は、すべての学位プログラムにおいて、深い教養と倫理観を礎とした専門的知識・技能を有し、主体的に社会と関わり、その中で「人生と学びの基盤となる力」を発揮することで、社会の持続可能な発展に貢献し新たな価値を生み出すことができる人材を育成する。

「人生と学びの基盤となる力」

- ・考動力

物事を批判的に捉えて問題を発見するとともに、その問題解決のために行動する力

- ・複眼的思考力

多角的な視点と柔軟な心をもって、物事をとらえる力

- ・共感力

他者の意見や考えに耳を傾けるとともに、自らの意見や考えを表現し、伝える力

- ・リーダーシップ

集団の目標達成のために、自らの果たすべき責任を自覚するとともに、他者と良好な関係を築き、協働する力

- ・探究力

積極的に新しいことに挑戦するとともに、粘り強く学び続ける力

- ・自律的キャリア

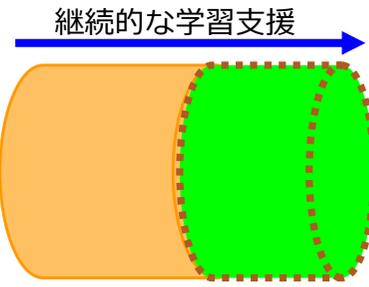
長期的な展望をもって将来の人生を思い描き、その実現のために必要とされる物事を理解し、それに向けて計画し、実行する力

3. 3学期制の導入

■非同期型オンライン授業 講義動画+課題提出+フィードバック

- 授業でのしかけ
- 講義動画の配信
 - 毎回行う理解度のチェック
 - それに関するフィードバック
 - 小テストによる評価

- 学生へ影響
- 個別最適化—学習者中心
 - 繰り返しの学習
 - 学生のペース・嗜好性

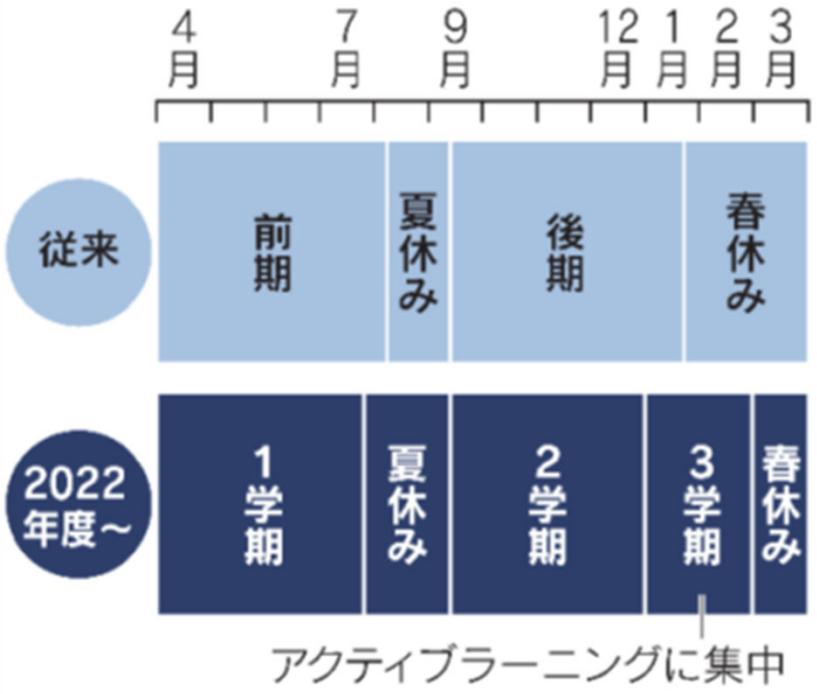


■アクティブラーニング・タームの導入

- 授業での仕掛け
- 社会的な課題への取り組み
 - グループワークの導入
 - 資質能力の育成
 - プレゼンやレポートによる評価

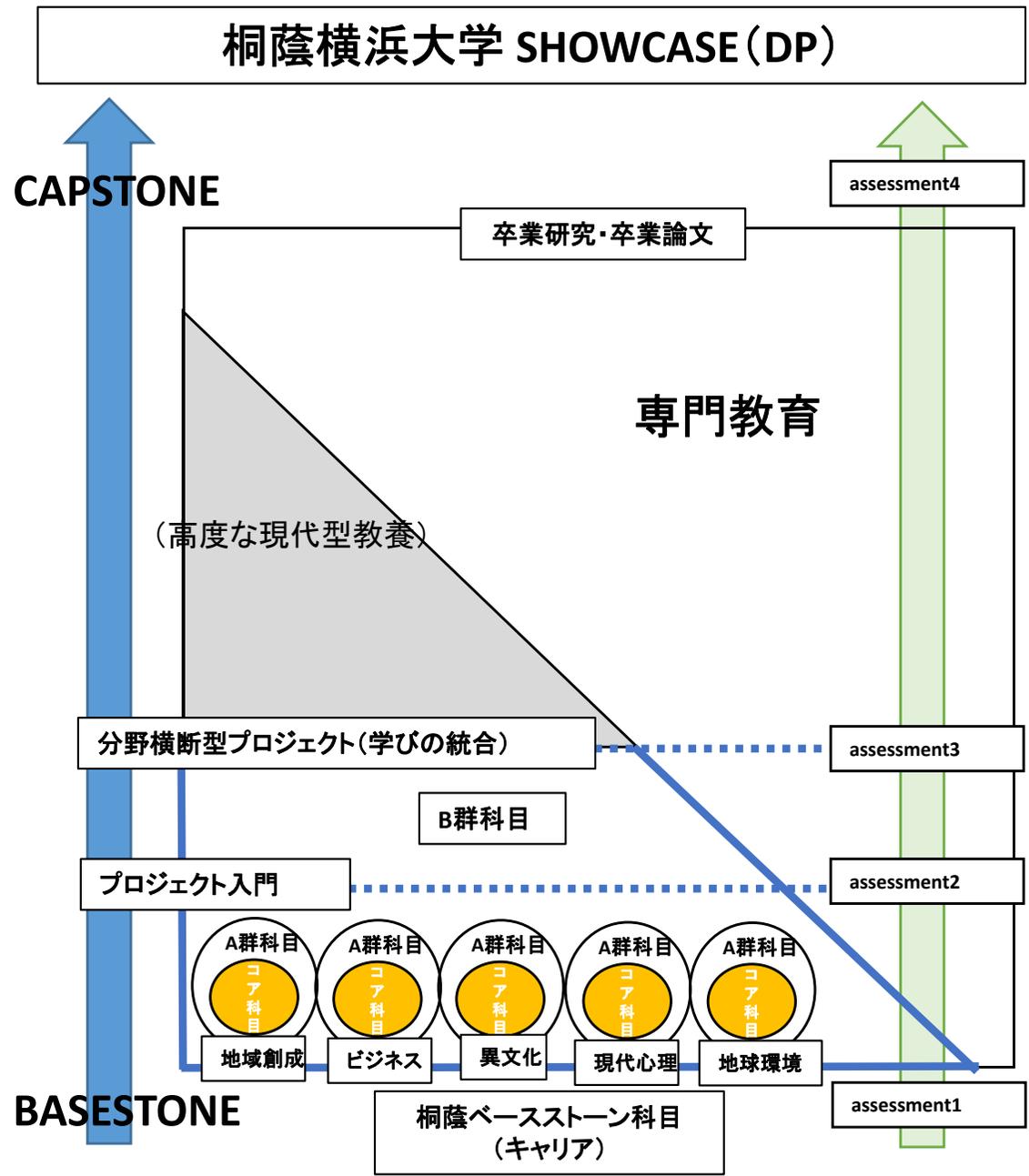
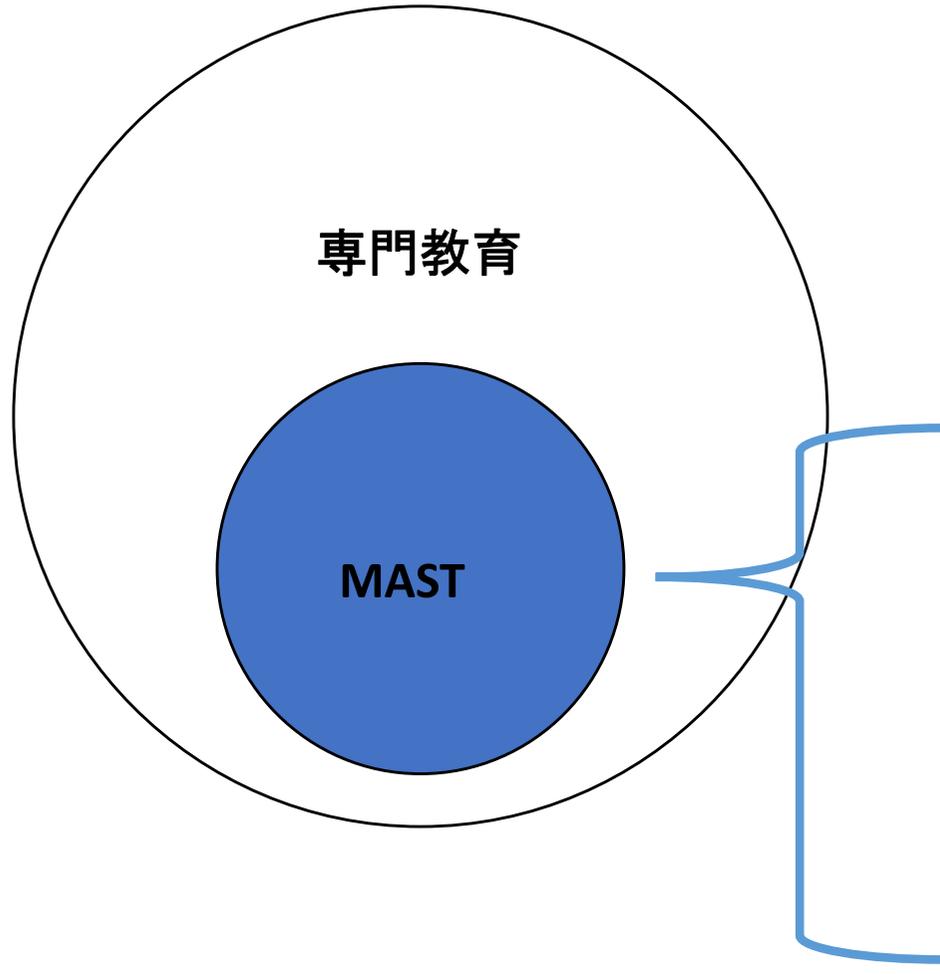
■知識提供担当×ALファシリタ担当のTT→教員の個別最適化

2022年度 105分×13週開講 (1,365分)



4. MASTの設置 (2023~)

【桐蔭横浜大学の学士課程教育】

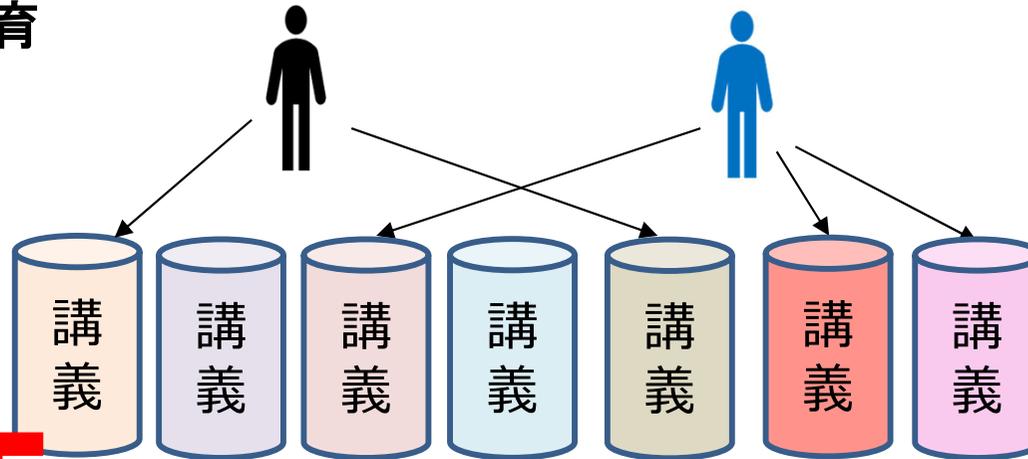


共通教育プログラム「MAST」の特徴

- 1. (カリキュラム) つまみ食いではなく、セットメニューで固まった知識を獲得＝専門性重視の教養教育
- 2. (教育内容) 予測困難な世の中に不可欠な5つの現代的課題＝超スマート社会で活躍すジェネラリストの輩出
- 3. (教育方法) 知識をインプットするオンライン授業とそれを定着させる体験型授業の組み合わせ＝学習研究に基づく最新のハイブリッド方式
- 4. (教育方法) 各授業で学んだ知識を統合し、仲間とともに実際の現代的課題に取り組む＝地域・企業等とコラボするプロジェクト型学習

学んで・実践・リフレクション（振り返り）

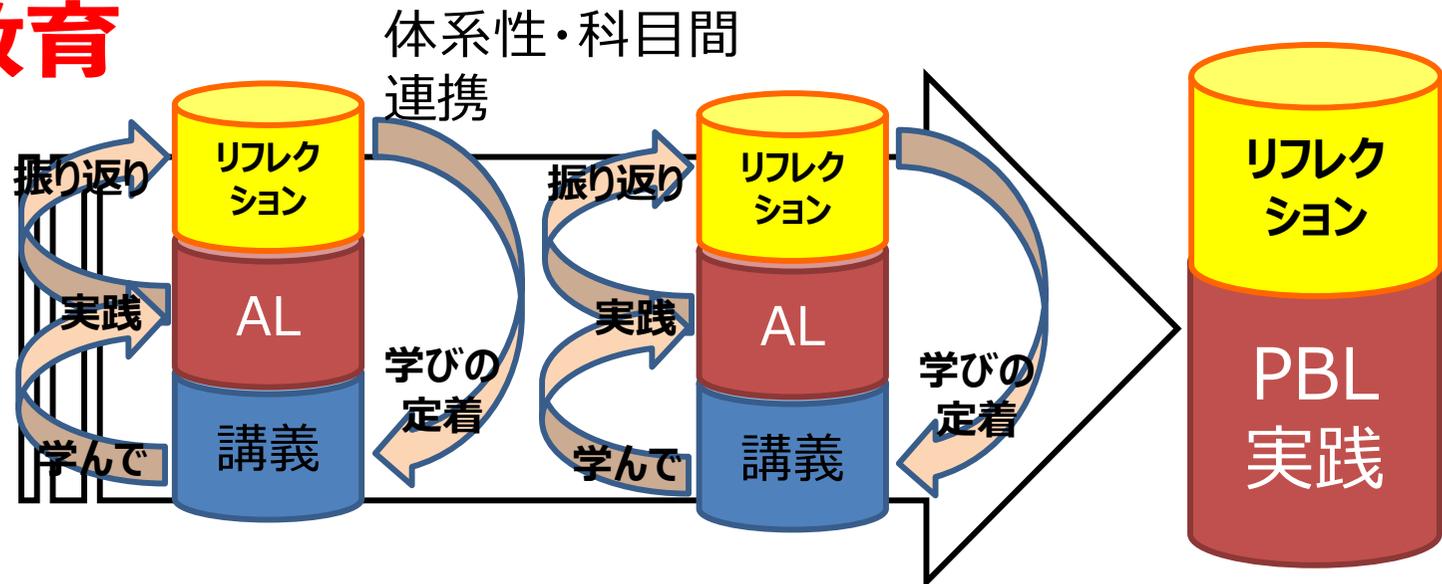
一般的な共通教育
（1年次）



バイキング料理
アラカルト
ビュッフェ形式

MAST

新・共通教育



専門教育

MAST

AI やデータサイエンスの基礎知識やデータの収集・分析の技術を学ぶことに加えて、データに基づいたコミュニケーションの作法を身につけます

データコミュニケーション入門

桐蔭キャリアゲート

過去の学びや経験と現在の自分をつなぐことを通して、未来の“なりたい自分”を思い描き、4年間の大学生活の礎を築きます

桐蔭スキルゲート

文書作成やプレゼンテーションなど大学生活に留まらず、現代社会で必須となるスキルを磨き、生き抜く力を養います

学びの基盤となる3つの科目

可能性を広げる7つのコース

地球環境

資源の枯渇や温暖化など地球環境の問題を科学の視点から考察し、豊かで持続可能な未来を模索するための知見を獲得する科目群

ビジネス・インテンシブ

予測が難しい現代社会のなかで、新たな価値を創出する企業人・起業人として求められる知識やスキルを獲得する科目群

現代心理

様々なアプローチで心に対して迫ることを経験することを通して、心のありようやメカニズムについての理論を獲得する科目群

異文化スタディ

多様な文化を理解することを通して、グローバル化が進む現代社会の中で自己や自国の文化を相対化して考える視点を獲得する科目群

地域創成

人々が生活する地域社会が抱える課題を理解し、解決に導くための知識を、理論と実践を往還する活動を通して獲得する科目群

アスリート・キャリア

選手としてだけではなく、生涯に渡ってスポーツに関わり、スポーツにかかわる諸課題を解決するための知識や技能を獲得する科目群

ティーチャー・キャリア

教師として学習者の視点に立ち、学びの視点から優れた教師になるために求められる知識や技能を獲得する科目群

MASTの科目区分構成（案）

	区分	概要
	課外活動の単位化	インターンシップ、ボランティア、短期留学などの課外活動を単位化する
MAST -3rd	分野横断型プロジェクト	コア科目、A群科目、プロジェクト入門で得た学びの成果を統合するために、そこでの学びを実際のプロジェクトにおける実践活動に活用しながら発展的に学ぶ各コンポの集大成科目。
	B群科目	コア科目、A群科目、プロジェクト入門を通して身につけた各コンポの学びをさらに発展させることを目的とする科目。
MAST -2nd	プロジェクト入門	コア科目とA群科目で得た学びの成果を統合するために、実際のプロジェクトにおける実践活動にこれまでの学びを活用しながら発展的に学ぶ科目。
	A群科目	各コンポの基礎科目。学生はこの区分の科目履修を通して、コア科目で身につけた各コンポの専門領域における「ものの見方（Viewpoint）」を発展させることを目的とする。
	コア科目	各コンポの入門科目。科目名称は「〇〇の科学」とする。学生はこの科目の履修を通して、各コンポの専門領域における「ものの見方（Viewpoint）」を理解することを目的とする。
	体育	既存の体育実技科目等をMASTの科目とする。
MAST -1st	英語	1年次前期に1科目（2単位）、1年次後期に1科目（2単位）を必修科目として開講する。
	FLP （フューチャーライフ プログラム）	桐蔭横浜大学生の4年間の学びの基盤となる3科目（各2単位）を1年次必修科目として開講する。2021年度前期「桐蔭ベースストーン科目（キャリア）」、2021年度前期「桐蔭ベースストーン科目（スキル）」、2021年度後期「データコミュニケーション入門」を開講している。